

令和8年産 コメ通信

第5号（令和8年6月26日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

目標茎数の確保後、速やかに中干しの実施を！

1 気象経過と生育状況

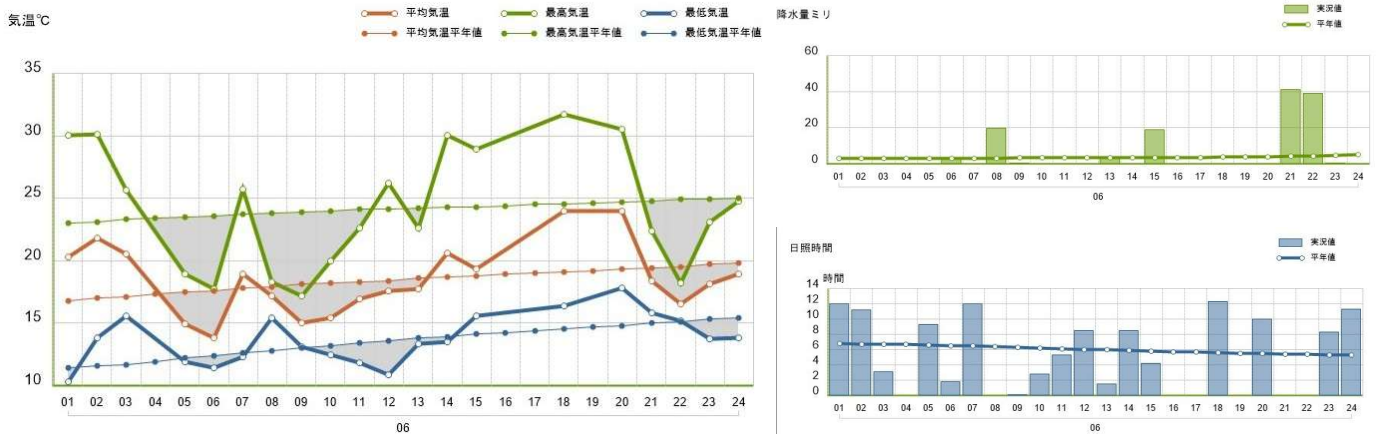


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【気象経過及び1か月予報】

- 6月2半旬は、気温が低く、日照時間が短い日が続きましたが、3半旬以降は気温が高く、推移しました。また、降水量・日照時間はともに平年よりも少なくなりました（図1）。
- 仙台管区气象台が6月21日に発表した東北北部の梅雨入りは、平年よりも6日遅い6月21日頃となっています。また、1か月予報（6月25日現在）では、平均気温は高く、降水量・日照時間はほぼ平年並の予報となっています。

【生育状況（定点調査結果）】

- 6月25日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は、草丈は短く、茎数は多く、葉数はやや多く、葉色は平年並となっています（表1）。
- 田植え後の気温日較差が大きい日が多く、分けつの発生が促進されたため、ほとんどのほ場で茎数が多くなりました。しかし、田植日が遅いほ場や田植え後の水深が深かったほ場では、茎数の増加が緩慢でした。
- 6月2半旬から3半旬にかけて、気温が低い気象経過だったものの、3半旬以降は、気温が高い日が続いたため、生育が早まっています。
- 目標茎数を確保しているほ場は、次の「2 今後の水管理」を参考に適期の中干しを実施しましょう。定点調査ほの中でも生育が早いほ場では、既に中干しを実施しています。暦での作業ではなく、稲の生育に合わせた栽培管理を実施しましょう。なお、茎数が不足している場合は浅水管理を継続し、分けつの発生を促進してください。

表1 定点調査結果（6月25日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	36.7	497	9.4	43.6
平年	39.4	456	9.1	43.7
前年	41.8	403	9.1	42.7
平年比・差	93%	109%	0.3	100%
前年比・差	88%	123%	0.3	102%

※平年値は、過去10か年平均

※葉色は、SPAD-502Plusでの測定値

2 今後の水管理

【中干しによる弱勢茎の抑制】

※茎数が少ない場合は強い中干しを避けてください。

- 目標穂数と同数の茎数（あきたこまちは70株植で1株あたり20本程度、60株植では1株あたり25本程度）を確保したら、直ちに中干しに入りましょう。
- 中干し期間は7～10日間程度とし、田面に亀裂が1～2cm入り軽く足跡のつく程度として、幼穂形成期までに終わります。終了後は間断かん水により土壌を酸化的に保ち、根の伸長を促進します。

3 主要病害虫の防除対策

【いもち病】

- 余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への伝染源になります。ほ場に放置されている余り苗が散見されますので、直ちに泥に埋めて処分してください。
- 北秋田管内では、6月9日に鷹巣で準感染好適日、6月21日に大館で感染好適日が確認されました。感染した場合は1週間程度で発病しますので、病斑（右写真参照）を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を茎葉散布してください。また、必要に応じてビーム剤の追加散布を行ってください。



写真 葉いもち病斑

【斑点米カメムシ類】

◆農薬の使用回数に注意！

ラブサイド剤（ブラシン剤等含む）の成分である「フサライド」や、ビーム剤（ノンブラス剤等含む）の成分である「トリシクラゾール」の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内となっています。農薬は使用する度に帳簿に記載し、総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

- 斑点米カメムシ類は、休耕田や畦畔等のイネ科の雑草で増殖し、これらが水田内に侵入して加害します。
- アカスジカスミカメは、水田内のカヤツリグサ科（ホタルイ等）やノビエの穂に産卵するため、これらの雑草が水田内に繁茂すると、斑点米による被害が甚大になります。
- 出穂の15～10日前まで継続して除草を行い、雑草が出穂しない管理に努めてください。

4 中・後期除草剤の適正な使用

- 気温が高い気象経過だったため、雑草が繁茂しているほ場が散見されます。中・後期剤の使用にあたっては、雑草の草種や生育程度に応じて適切な剤を選択して下さい。
- 散布時期や散布時の水管理は剤によって異なるため、ラベルをよく読んで適正に使用してください。

ツキノワグマ出没警報（令和8年7月31日まで）

春以降、人の生活圏でのクマの目撃件数が増加し続けています。農作業時は、対策グッズを用意するなど、十分に注意してください。



ツキノワグマ情報 | 農林水産省
www.pmda.go.jp

熱中症対策・熱中症予防行動を心がけましょう

今後、気温が高くなっていくことが想定されます。作業する時は、高温時は極力避け、作業中はこまめに休憩・水分補給をするなどの熱中症対策を心がけましょう。

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで～次回発行は7月上旬頃～